

部 会 報 告

「平成 20 年度 建設施工と建設機械シンポジウム」開催報告

—優秀論文賞 6 編, 優秀ポスター賞 2 編を表彰—

広 報 部 会

社団法人日本建設機械化協会主催による「平成 20 年度 建設施工と建設機械シンポジウム」が、平成 20 年 10 月 16 日 (木) ~ 17 日 (金) の二日間にわたり、東京都港区の機械振興会館において国土交通省、経済産業省、(独)土木研究所、(社)土木学会、(社)日本機械学会、(社)地盤工学会および(社)日本機械土工協会の後援のもとに開催された。

今年の発表も、現場における課題に対し、様々な取り組みや工夫で改善するものが多く、実用性の高い技術開発に関する内容が多かった。その中でも他分野の技術やツールを建設分野に取り入れて新しい技術開発を行った事例が見られたことは、建設技術の高度化にとって明るい展望であり、今後も他分野との連携や情報収集を積極的に進めることが望まれる。

今年は産学官から寄せられた 43 編の論文及びポスターセッションに 11 編の応募があり、5 分野・3 会場で発表され、活発な質疑が行われた。1 次選考として厳正に査読・審査し、当日の発表内容の 2 次選考の結果、6 編に対し優秀論文賞が、またポスターセッションでは同じく 2 編に優秀ポスター賞が授与された。



写真一 1 論文発表状況

◆優秀論文賞◆

(1) 大規模免震レトロフィットへ適用した機械化・情報化施工事例

池田雄一, 坂井利光, 谷口英武 (株)大林組

大規模な免震レトロフィットへ工事の施工事例と施工にあたり必要となった開発について良く纏められている。今後必要とされる耐震強度アップ工事, 狭い地下空間での様々な工夫は充分評価できる論文であった。

(2) キャビテーション噴流技術を用いた高速清掃装置の開発

時枝寛之 (株)高速道路総合技術研究所

キャビテーション噴流技術により, トンネル照明器具の清掃の高速化を可能にした実用化が望まれる技術である。

(3) 乾式系吹付けアスベスト除去ロボットの開発・実証

森直樹, 長瀬公一 (大成建設(株))

開発された技術の概要がうまく説明されている。社会的に大きな問題となっているアスベスト除去技術で, 興味深い。

(4) 機内から障害物を撤去する推進工法の開発と下水道工事の施工例

萩野淳三, 大和田剛, 近藤紀夫 (大豊建設(株))

小口径推進装置内より切羽に移動でき, 掘削トラブルに対し非常に有効である。

(5) 油圧ショベルによる IT 施工システムに関する研究

邵輝, 山元弘, 茂木正晴, 大槻崇, 柳沢雄二 ((独)土木研究所), 野末晃 (株)フジタ, 境田右軌 (理化学研究所), 山口崇 (環境省)

内容的にも完成度の高い論文である。災害復旧時だけでなく, 砂防ダムの排土など危険箇所での作業に有効である。

(6) 道路トンネル無人調査ユニットの開発

宮島実, 小林弘朗, 畑山啓 (国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所)

地震被災時での必要性・有用性がよく理解でき, 有意義な取り組みである。他分野でも活用できる探査車でもある。



写真-2 表彰式

本誌では, 本号及び12月号において, 優秀論文全編を全文紹介する。

◆優秀ポスター賞◆

(1) 能動スコープカメラ：狭路空間内の品質検査のために

昆陽雅司, 澤田一奈, 田所諭 (東北大学)
能動スコープカメラは原理的・機能的にも非常にユ

ニークな技術。ポスターセッションでの発表も分かりやすく, 最も注目される発表である。応用範囲が広く, 有用な技術である。

(2) NSWS (Nihon Screw Weight System)

大北耕三 (株)大北耕商事, 近藤巧 (有)O & K Corporation)

説明が分かりやすく, 視覚的にも良いポスターと言え, 将来性を感じる。

◆特別講演, 講演, 施工技術総合研究所研究報告, 機械部会・建設部会・標準部会活動報告◆

下記の特別講演, 講演を行うとともに, 本協会の施工技術総合研究所の研究発表および機械部会・建設部会・標準部会の成果報告も併催された。

特別講演 演題:「情報化施工推進戦略の策定について」

講師: 国土交通省総合政策局建設施工企画課 工学博士 森下博之 企画専門官

講演 演題:「建設産業における環境行動の現状と今後の方向性について」

講師: 株式会社日本能率協会総合研究所 社会環境研究本部

本部長 高野 昇様

厳しい経済情勢にも関わらず, 参加者は170名に達し活発な質疑が行われ成功裡に終了した。

J C M A